

令和6年度 信教全県研究大会

長野市立豊野西小学校 開催要項

長野市立豊野西小学校

- 1 期日 令和6年 11月19日(火)
- 2 会場 長野市立豊野西小学校
〒389-1106 長野市豊野町石1880番地 TEL026-257-3700
- 3 共同追究者 信州大学 准教授 高柳 充利 先生

4 日程

(1) 受付(高学年児童玄関) 12:45 ~ 13:00

(2) 開会式(図書館) 13:05 ~ 13:25

進行:会場校教務主任 山崎 智之

① 開式の言葉	会場校教頭	目黒 哲朗
② 主催者挨拶	信濃教育会 会長	大日方 貞一
③ 研究発表(授業者)	3年1組担任	本間 大貴
④ 諸連絡	会場校教頭	目黒 哲朗
⑤ 閉式の言葉	会場校教頭	目黒 哲朗

(3) 授業公開 13:35 ~ 14:20

授業学級 3年1組(男子14名 女子18名 計32名)

授業会場 会議室

(4) リフレクション(図書館) 14:30 ~ 15:20

- ・小グループに分かれての授業の振り返り (進行:豊野西小学校職員)

「授業の中で見られた、対話が生まれた場面とそれが生まれた元になったものは何かについて、
子どもの姿を通して語り合しましょう」

- ・本日の授業と、授業の振り返りを通して考えたこと
- ・高柳充利 先生のご指導

(5) ワークショップ(図書館) 15:30 ~ 16:20

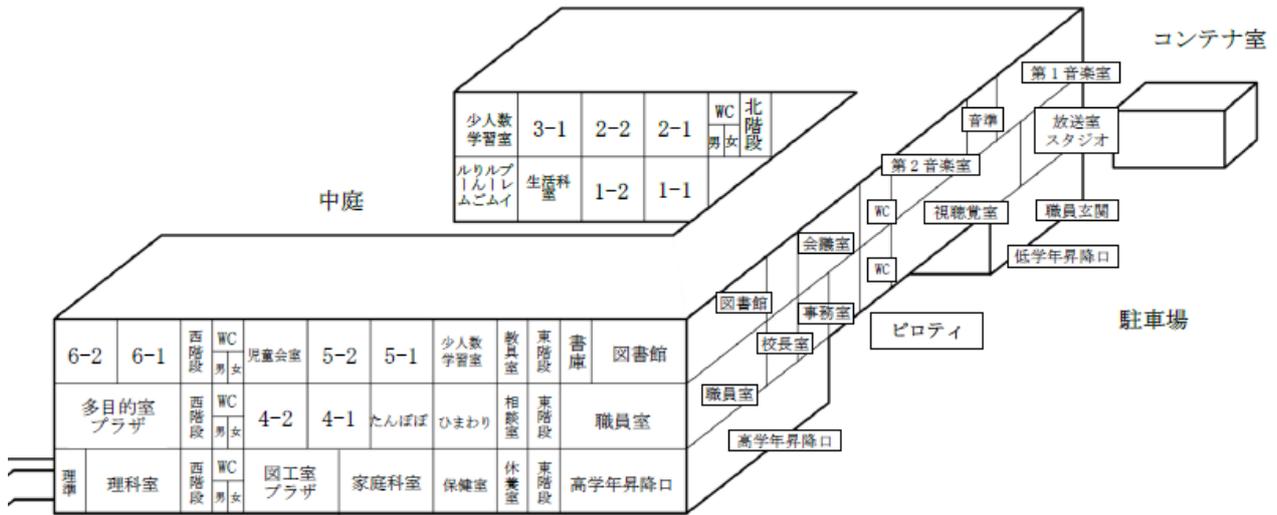
- ・授業者 本間大貴 教諭からの問題提起
- ・小グループに分かれての対話の時間 (進行:豊野西小学校職員)
- ・ワークショップを通して考えたこと
- ・高柳充利 先生のご指導

(6) 閉会式 16:20 ~ 16:30

進行：会場校教務主任 山崎 智之

① 開式の言葉	会場校教頭	目黒 哲朗
② 会場校校長挨拶	豊野西小学校長	小野 英子
③ 諸連絡	会場校教頭	目黒 哲朗
④ 閉式の言葉	会場校教頭	目黒 哲朗

5 会場図



6 その他

- (1) 湯茶、上履き等は各自持参してください。またお手数ですが、本要項および授業資料を各自で印刷してご持参ください。
- (2) 昼食は各自でお済ませの上、ご参加ください。
- (3) 駐車場は別紙案内をご覧いただき、校庭隅にある砂利の駐車スペースをご利用ください。係が案内をします。
- (4) 写真、動画等の撮影が必要な場合はあらかじめお申し出をお願いします。
- (5) 当日配付する座席表等児童の個人情報に関わる資料はお帰りの際に回収させていただきます。
- (6) お帰りの際に、本日の反省を別掲の二次元コードより記入いただきますようご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/SdKejdWUin>



令和6年11月19日

参加者の皆様

長野市立豊野西小学校長 小野 英子

令和6年度信教全県研究大会アンケート

本日はご参会いただきまして、誠に有難うございました。研究者をはじめ当校の今後の授業改善に生かしてまいりたく、先生方よりご意見・ご感想やお気付きの点をお寄せいただければ幸いです。本日中午に頂戴できますと大変嬉しいのですが、11月21日（木）までに、下記の二次元コードで示しましたリンク先の forms にてご回答をお寄せください。よろしく申し上げます。

記

1 回答をお願いする内容

- ① 研究者の研究内容および公開授業の内容について。
- ② リフレクションで振り返った内容について。
- ③ ワークショップでの対話について。
- ④ その他（本会の運営全般について）

2 回答をいただく期限について

11月21日（木）までにお願ひします。

<https://forms.office.com/r/SdKejdWUin>



対話がうまれる道徳の授業づくり



【授業者の思い】

「いくら目隠しをされても己（おれ）は向く方へ向く。いくら廻されても針は天極をさす。」

（日本語を味わう名詩入門 高村光太郎「詩人」）

初任校で公開授業をした際に指導者の先生から教えていただいた「天極をさす」の言葉。教職10年を振り返り、改めてこの言葉の意味を考えてみると「子どもと共に学ぶ」ことが頭に浮かんだ。だれしもよりよい自分でありたいという願いをもって、それは大人でも子どもでも同じだろう。それぞれが目指す「天極」に、子どもと同じ方向を向いて共に学ぶ教師でありたいという思いが私の原点であり、今後の課題であると感じている。

【豊野西小で出会った3年生の子ども】男子14名 女子18名 計32名

本校で唯一の単級学年である3年生。1・2年時には裏山の探検、おかぼの栽培など、自然にかかわり、自然の中での人や人とかかわる活動を充実させていた。今年度から私が担任となり、4月に出かけた春探し。草の上に寝転がる子、竹藪の中をずんずん進んでいく子、山の斜面で滑り台をする子などなど…、自然の中での活動に浸りこんで遊ぶ子どもの姿があった。



自然での活動と同様に、普段の学習場面でも自分の思いを臆さず発信できる子どもたち。「クラスの夢をかなえる」とした総合的な学習の時間。どんな夢をかなえたいかを話し合うと「育てた野菜でカレーをつくりたい」「竹で家を作りたい」「裏山に遊具を作って遊びたい」と、話し合いで夢が広がっていく時間に心地よさを感じた。

一方で、友だちの言動に厳しい言葉、特に「だめだよ」と強い口調で注意する姿が目立っていた。注意する側は、友だちがきまりを守れない時にたしなめるような、あくまで相手のことを考えた声かけであると思っているようだった。しかし私には、きまりによって抑圧された感情のはけ口として注意している、つまり「自分は守っているのに、どうしてあなたは守っていないんだ！」という自己満足な気持ちがかもっているように感じた。

きまりを守るという視点で考えても、その場の状況や気持ち、その人が持っている特性によって、どうしても守れないときがあるものだろう。そんな人の弱さに寄り添うからこそ、きまりが血の通った温度感のあるものになっていく。自分本位ではなく、相手の立場になって自分の行動を考えられるような習慣を身につけていくことで、互いに認め合える学級になっていけると感じている。

【対話がうまれるということ】

全教育活動を通じて行うとされる道徳教育は「よりよく生きる基盤となる道徳性を養う」ことを基本としている。ここから、拙いながらもこれまでの自分の実践や経験をもとに「自らの生き方を問い続ける」習慣を大切にしたいという思いをもって授業をしなければと肝に据えている。

現代はよく「先の見えない時代」とも言われる。前任校が木曾地区で、縁あって島崎藤村の作品に触れることが多くあった。代表作の「夜明け前」では、江戸末期の民衆の様子が描かれている。開国へと

向かう大きな時代の転換期、まさに「先の見えない時代」の中で自らの生き方を問う主人公の心情に触れ、現代とのつながりを感じた。

どんな時代であれ「先の見えない」ことは同じ。ただ、現代は様々な情報があふれ「先が見えそうで見えない」時代であると思う。

様々な情報に流されて漠然とした不安に押しつぶされるのではなく、時代に生きる一人の自分として「どう生きるか」という問いに納得解を出せる人であってほしい。その糸口になるのが他者とのかかわりであり、対話であると考えた。今年度はこの「自らの生き方を問い続ける」という課題に、「対話」をキーワードにして授業実践を行っていきたいと考え、「対話がうまれる道徳の授業づくり」をスタートさせた。

II 研究の方向（共同研究者・高柳先生との話から見えてきたこと）

対話を授業で位置づけようと「話し合いをしましょう」と子どもに声をかける。すると、グループで自分の考えを発表して「先生。発表したよ。次何すればいいの？」などということがよくあった。本実践では対話を「驚きから始まり、探究と思考によって進む会話のこと」として、授業改善を図っていく。このように考えると、対話はさせるものではなく、子どもたちの内から生まれてくるものだと考えることができる。

対話とは…

驚きから始まり、探究と思考によって進む会話のこと

（『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』川野哲也著より）

【こだわりの自分、どうしても自分】

高柳先生との話から「互いのこだわりを楽しめることから対話がうまれてくるのではないか」とご示唆をいただいた。道徳的価値を自分事として考えていくとき「わかっているけれどどうしてもできない」と自己を見つめる瞬間がうまれる。その「どうしても自分」を、本実践では「こだわり」として、このこだわりにその子らしさがあると考えた。

授業の中で自分のこだわりを出せる。そして、友だちのこだわりに「わかるな～」「そういう考えもあるよね」と驚き、「どうしてそう思ったの？」と探究し、「私もこんなことがあるよ」と思考する。こだわりから対話がうまれる過程が見えてきた。

【教師としての感覚の精度を上げていく】

「子どもと共に学ぶ」ことは、単に子どもと近い関係になることでもなく、大人として子どもの学びを全て管理することでもない。教師としての立ち位置を模索していく中で、ふとした時に私自身も学習や活動に浸りこんで思考し、探究していることがある。純粋に子どもと共に学ぶことを楽しめている瞬間である。それは決して意図していることでもなく、感覚的に動いていることが多い。教師としてこの感覚に頼っていていいのか悩みに感じていることもあり、高柳先生と話している中で打ち



明けてみた。高柳先生からは「誰しも自分なりのフォームがある。先生はそのフォームで感覚の精度を上げていけばいいのではないか」とアドバイスをいただいた。この言葉によって自分の今後の教師としての課題がはっきり見えた気がした。教師として経験を重ねることで、どの子にも通じる指導法を求めている自分がいたように思う。そうではなく、その子らしさに心を寄せて（シンクロして）、共に学ぼうとするフォームが自分の持ち味。百人の子どもがいれば、百通りのその子らしさがある。子どもに寄り添える教師としての感覚の精度を上げることで、私が求める教師の立ち位置で、子どもと共に学ぶことを実現していけると自覚することができた。

高柳先生との話から見えてきた私の課題

- ① こだわりを出せる活動を充実させる
- ② こだわりを受け止め合える関係づくりを進める
- ③ 子どものこだわりにシンクロする教師の感覚の精度を上げる

IV 対話がうまれた瞬間

【道徳】課題②③にかかわって

- 1 主題名 それぞれのよいところ【内容項目 A-4 個性の伸長】
- 2 教材名 「三年元気組」(どうとく3 光村図書)
- 3 ねらい

自分のよいところを見つけ、伸ばすためにはどんな気持ちが必要かを考えることを通して、好きだと思えることを自分の特徴として自覚し、特徴が長所となるよう、よい方向に伸ばしていこうとする実践意欲を養う。

4 授業の考察

「個性の伸長」について、学習指導要領では「個性とは、個人特有の特徴や性格である」「この内容における特徴とは、他者と比較して特に自分の目立つ点と捉えている」とある。たしかに、集団があつてこそ個性である。ただ、この“比較”に縛られている子も多いのではないかと。子どもに「自分のいいところはどんなところ?」という事前アンケートをすると「言いたくない。自慢みたいになる」という意見が多く見られた。

【A 児のこだわりの思いに寄せて】

・ A 児の実態と、A 児に寄せる思い

A 児は周りのことによく気がつき、率先して行動しているクラスのリーダー的な存在である。一方で、特に自分自身のことになると弱気で自信をもてずにいる姿も見られる。事前アンケートに「自分のいいところはいいたくない。自慢になる」と書いている子の一人であった。周りの目を気にしすぎることなく、自分らしさを存分に発揮していくことで、A 児のよさが伸びていくと感じている。



・ 本時の様子

グループ活動

中心発問となる主人公の心情についてA児は「ちょっと不安だけど、友だちにがんばったことも教えてもらえたし、自分のいいところを見つけられたから大丈夫」と書いていた。自分の考えを書き終えて、友だちの考えを読み始めるA児。「友だちがほめてくれた」という考えに線を引いて、友だちの考えと自分の考えを結んでいた。

その後、私が机間巡視をしてA児のグループにもどってくると、「自慢」はいいか、悪いかということについて話をしていた。私が「自慢って悪いことなの？」と聞くとA児は「うん。だって家でも自慢しちゃダメってお母さんによく言われているもん」と答えてくれた。

全体でのやりとり Tは授業者 ()は授業者の意図

A 2班では自慢のことを話してて。自慢された人が悲しむ。された相手が嫌な気持ちになって、悲しむことになるから…。たとえば…。(Bの方に目を向ける)

B たとえば「おれ自主学习を40ページもやったんだ」って言われると、相手は「自分は2、3ページしかできない」って笑われた気持ちになる。

C あ〜。なんか自信がなくなっていく感じ。

(人と比べることについて考えるために)

T 自慢の言い方がよくないってこと？どんな言い方がよくない？

D 「すごいでしょ〜」って言い方。

T 「すごいでしょ〜」ってことは、何かと比べてすごいでしょ〜ってこと？何と比べているの？

E 相手。相手と比べて自分がすごいでしょ〜って言い方がよくない。

A そう！そういうことをするから、相手が、なんか…。

普段のA字の姿から、A児は「自慢はよくない」という思いが「自信をもつこともよくない」につながってしまっていたように思える。授業後の振り返りでA児は右のように書いていた。A児の「自慢はよくない」というこだわりは、他者とのかわりの中で自分らしくありたいというA児の願いであったのだろう。そのこだわりに共感し、自分のエピソードつなげていくB児。私自身も「A児は自慢にこだわるだろうな」と考えていたことで、A児の思いを全体で位置付けることができた。

『三年元気組』自分のいいところに自信をもつために



2はんでは「じまん」について話して、たとえば「自しゅ学習で50ページもやったんだよ」と言うと相手がいやな気持ちになっちゃうかもしれないから、「勉強が好きになったんだ」とかなら「すごだね」っておうえんしてもらえると



自分のいいところは人とくらべるんじゃなくて、自分が好きでやっ

「好き」って気持ちを大事にしたいね

教室に掲示している振り返りより

A児の姿から…

こだわりは「こうありたい」という願いでもある

【社会】課題①②にかかわって

1 単元名 市のうつりかわり

2 学習活動の概要 (本時は10月23日に実施)

- ・長野市立博物館で昔の道具やくらしに触れた子どもたちが、地域の方から昔の豊野町や長野市の様子についてインタビューすることを通して、移り変わっている人々の暮らしについての理解することを

ねらいとした。

- ・話を聞いたのは、地域のコミュニティサークル「石ころクラブ」の皆さん。5月に町たんけんの見守りにご協力をいただき、交流は今回で2回目。インタビューは8つグループに分かれて行った。
- ・長野市立博物館の古民家の見学で、水道が整備される前は水汲みが子どもの仕事だったことや、わらで身の周りのものを手作りしていたことを学んだ。また、洗濯板や炭火アイロンなど、電気がないころの道具についても知った。
- ・見学後には、昭和5年の豊野駅前の地図を見て、商店街が栄えていた町の様子を知った。SLも走っていたということで、当時のことを知っている人に話を聞きたいという流れになっていった。

3 F児のこだわりに寄せて

- ・F児の実態と、F児に寄せる願い

F児は見学の時から「絶対昔の方がいいよ。あんまり勉強しなくてよさそうじゃん」と話していた。豊野駅前の様子を知った時も「お店がたくさんあって楽しそう」と発言していた。普段から自分の感情や感覚に流されることが多く、じっくりと考えるという姿は少ないF児。当時の生活や町の様子を知ることで、くらしのよさを様々な視点で考えてほしいと感じていた。

- ・学習活動の様子

石ころクラブの皆さんへの質問を考える場面で「昔の豊野駅前にはどんなお店がありましたか？」や「SLを見たことがありますか？」など、たくさんの意見が出された。そこでF児は「昔と今でどっちがいいか聞きたい」と発言した。おそらく「昔はよかったよ～」と答えてくれることを期待しての発言だろう。「その質問いいね」「なんて答えてくれるか楽しみ」と声が上がったので、インタビューの初めの質問を「子どものころと今のくらしは、どちらがいいですか？」に決めた。さらに、初めの質問で答えてくれたことについて、子どもがどんどん質問しようということになった。地域の方を相手に、子どもが主導していく話し合いができるのか…。少々不安ではあったが、チャレンジしてみることにした。



インタビューでのやりとり F～Gは子ども O◇は石ころクラブの方

F 「子どものころと今のくらしは、どちらがいいですか？」

O 「それは、今の方がいいよ～」

F 「えっ？どうして今の方がいいと思ったんですか？」

O 「今は好きなことをたくさんできるでしょ。昔は子どもも家の手伝いをしてたからね。水道がなかったから、井戸から水をくむのは子どもの仕事だったんだよ」

◇ 「山へ焚きつけも取りにいったよ。焚きつけてわかる？火をつける枝のことだよ」

G 「わかるよ。キャンプしたとき火おこしたんだ。どうやって火をつけていたの？」

O 「昔はマッチで火をつけたんだよ。使ったことある？」

G 「前に使ったことがあるよ。」

H 「私も質問していいですか？子どものときにどんな遊びをしていましたか？」

◇ 「今みたいにゲームとかはなかったからね。外で遊んだり、鬼ごっこしていたよ」

F児は、石ころクラブの方の答えが意外だったのだろう。思わず「どうして？」と質問を返した。驚きから始まり、自然と探究に移っていくような対話がうまれた瞬間であった。F児の振り返りには「今も昔もどっちもいい」とある。

交流の中では、クラブのみなさんの話について「どうして?」「どうやって?」「何を?」などの質問をして、話を引き出している様子があった。驚きから思わず出た質問によって、自らの生き方を問う学びが拓けていった瞬間であったように思う。

石ころクラブのみなさんとの交流



Fさん

今も昔もどっちもいいと思った。昔のえんぴつつけずりをしてみたい。今はベッドがふかふかであったかいから、どっちもいい。

昔は豊野駅前にお店がいっぱいあるとは知らなかった。未来がどうなるかが楽しみ。



昔と今を考えると、今は電気だから自動で動くものが多いけれど、これまで人の力だけでがんばってきたのだと思った。昔の人の大変さがわかった。



教室に掲示している振り返りより

F児の姿から…

驚きから対話を進めていくことによって、自らの生き方を問う学びが拓ける

IV 本時の授業について

- 1 主題名 つたえたい ありがとう【内容項目 B-8 感謝】
- 2 教材名 「ありがとうの気持ちをこめて」(どうとく3 光村図書)
- 3 ねらい

これまでお世話になった方たちの自分たちに対する気持ちを考えることを通して、尊敬と感謝の気持ちを表そうとする心情を養う。

4 主題設定の理由

価値観	子ども観	教材観
相手が自分にくれくれたことに対して「ありがとう」と伝えることが多いが、行為の奥にある自分に向けられた思いに感謝の気持ちを表すことは少ないのではないか。これまでお世話になった方々の自分たちへの思いに心を寄せることで、日々の生活、あるいは自分が存在することに対する感謝へと広がっていき	お世話になった方へ感謝の気持ちを表したいと思える子が多い。「ありがとう」と伝えることで相手も自分も気持ちよくなるということを実感し、感謝の思いを行動に表していける。お世話になった方々の思いを考慮することで、尊敬と感謝の気持ちをもって他者にかかわってほしいとする意欲をさらに高めてほしい。その意欲が対話を生むものになると考える。	自分に直接向けられた相手の行動でなくても「生活を支えてくれている」という思いに感謝の気持ちを表そうとするつかさ。つかさの心情に迫ることで、行動の奥にある私たちへの思いに気づき、身近な人の思いを考える契機になる。

5 展開 (太字: ねらいにせまるための手立て)

時間	学習活動 (主な発問と予想される反応)	指導上の留意点 評価の視点
5分	<p>1 どんなときに「ありがとう」って言う?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けてくれた時。 ・教えてくれた時。 <p>(補助発問) これまで「ありがとう」を伝えてきた方は?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族。キャンプに協力してくれてありがとう。 ・ぶどう農家の須田さん。 ・石ころクラブのみなさん。 	<p>○Forms アンケート回答を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な「ありがとう」から、クラスの活動で出会った方々への「ありがとう」につなげていく。 ・補助発問によって、これまで自分たちの生活を支えてくれた方を想起できるようにしていく。

<p>30分</p>	<p>② 「ありがとうの気持ちをこめて」を読んで話し合う</p> <p>①教材を読んで考えたことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つかさは雨の日でも道路に立ってすごいな。 ・つかさの思いが警察の人にも伝わってよかった。 <p>【補助発問】 つかさはどんな気持ちで、働く人にあいさつを始めたのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を振り返してくれたから。 ・みんなのために働いてくれている。 ・「ありがとう」って伝えたくなった。 ・「みんなのために働こう」という気持ちに応えたいと思ったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid green; padding: 5px;">お世話になった方のどんな「気持ち」にこたえていきたい？</p> <p>②中心発問</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">これまでお世話になったみなさんは、どんな「気持ち」でわたしたちにいろいろなことを教えてくれたのかな？</p> <p>※予想される反応は資料参照</p> <p>【補助発問】 あなたは、その人たちの気持ちにどのように応えていきたい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に会ったときに「この前はありがとうごさいました」ってあいさつしたい。 ・手話を教えてもらったから、今度は私がいろんな人に手話を教えられるようになりたい。 ・豊野町のことを大切にしたい。 ・総合で、来年も自分たちの夢をかなえる活動にチャレンジしたい。 	<p>○<u>子どもの発表を共感的に聞きながら、以下の場面に関連させて補助発問をしていく</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・つかさがあいさつを始めた場面 <p>→相手の気持ちに対して行動しようとしているつかさの心情に迫ることで、「自分たちはどんな気持ちに感謝を伝えてきたか」という視点で価値を自分事として捉えられるようにする</p> <p>○<u>グループで考えを交流する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを読んで、「どうしてこう思ったの？」や「例えばどういうこと？」と質問するよう促す。 ・友だちの考えで素敵だなと思ったところに線を引いたり、自分の考えとつなげたりする。 <p>○<u>全体で考えを共有する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助発問をすることで、自分たちを支えてくれる人たちのおかげで今の生活があることを実感させたい。
<p>10分</p>	<p>3 本時を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの活動を助けてくれた人がたくさんいる。その思いに応えられるようにしっかり学びたい。 ・わたしたちのために働いてくれている人がたくさんいることがわかった。これからも「ありがとう」を伝えていきたい。 	<p>○本時を通して考えたことを振り返るように促す。</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">【指導と評価の一体化】 これまでお世話になった方へ尊敬と感謝の気持ちを表そうとすることについて考えているか。</p>

○3年生の活動でお世話になったみなさん

		○活動 ☆エピソード	思い (予想される反応)
5月・10月	石ころクラブのみなさん 	○社会「わたしたちのまち」 ☆近所の交流サークル「石ころクラブ」。5月の町たんけんの活動では、大勢の方が一緒に活動をしてくださった。10月には、昔の暮らしについてインタビューをして、これまでのお礼として茶巾絞りをプレゼントした。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん勉強してほしい ・安全を見守りたい ・仲良くなりたい ・豊野町を好きになってほしい
5月	りんご農家 三井さん 	○総合「りんごの栽培」 ☆学校のりんごの木の剪定や摘果の作業、フジりんごの特徴なども教えてくださった。	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごについて知ってほしい ・おいしいりんごを食べしてほしい ・豊野のりんごを大切にしてほしい。
5月 (年間)	習字指導 伊藤先生 	○国語「習字」 ☆5月から月1回で習字の指導に来てくださっている。学習する字の手本やそれぞれの名前の手本も書いてくださった。	<ul style="list-style-type: none"> ・習字が上手くなってほしい ・習字を楽しんでほしい
6月・9月・10月	ぶどう農家 須田さん 	○社会「農家の仕事」 ☆農家であり、本校PTA会長でもある須田さん。6月と9月に畑を見学した。見学のお礼で手紙を書いたことを喜んでくださり、10月のキャンプでぶどうの差し入れをくださった。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん勉強してほしい ・ぶどうのおいしさを知ってもらいたい ・おいしいぶどうを食べてもらいたい
9月・10月	手話指導 矢野さん・平林さん 	○総合「手話を学ぼう」 ☆音楽会で手話を取り入れた歌を発表するために、県の「おでかけ手話教室」事業で手話を教えてくださった。「君をのせて」の手話も教えていただいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・手話をたくさんの人に知ってもらいたい ・音楽会でいい発表になるようにサポートしたい

1 0 月	長野中央消防署のみなさん 	○社会見学 ☆署内の設備や署員さんの仕事について教えていただいた。子どもたちはたくさん質問をして熱心に話を聞いていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの命を守りたい ・火事をなくしたい
1 0 月	長野市立博物館のみなさん 	○社会見学 ☆昔のくらしや道具について教えていただいた。俵編み体験では、サポーターのみなさんが丁寧に作業を教えてくださいました。	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のくらしについて知ってほしい ・楽しい社会見学にしてほしい ・たくさんのことを学んでほしい
1 0 月	ポアールズ長野 田中選手・柄沢さん 	○体育「フットサル」 ☆活動中には「ともちゃん」「からちゃん」と声をかけ、友だちのように接していた。活動後の休み時間にも、お二人が帰るまで周りを取り巻いて話をしていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサルの楽しさを知ってほしい ・楽しくフットサルをしてほしい ・これからも応援してほしい
1 0 月	家族 	○総合「みんなでキャンプ」 ☆中核活動で火おこし、テントづくりなどアウトドア活動にチャレンジした。そのまゝとめとして計画したキャンプ。当日はカレー作りや花火などの企画を家族と一緒に楽しんだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの夢をかなえたい ・安全にキャンプができるように助けてほしい
1 0 月	食生活改善推進協議会のみなさん 	○親子食育教室 ☆総合の栽培活動で収穫したサツマイモとリンゴ（リンゴは生育不良のため収穫できなかった）を調理するために企画した。ここで作った茶巾絞りを石ころクラブのみなさんにプレゼントした。	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい料理を知ってもらいたい。 ・みんなで楽しく料理をしてほしい

学校周辺の交通案内



若槻大通り
(至稲田)

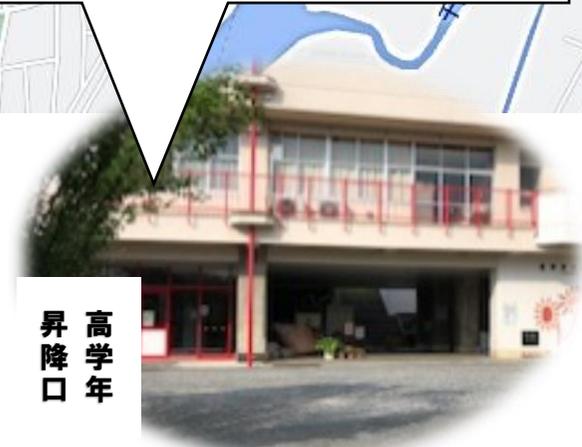
屋根の下に「指定車用」という看板があります。そこに駐車なさってください。

来客用玄関のご案内



玄関

学校周辺の交通案内



高学年
昇降口